

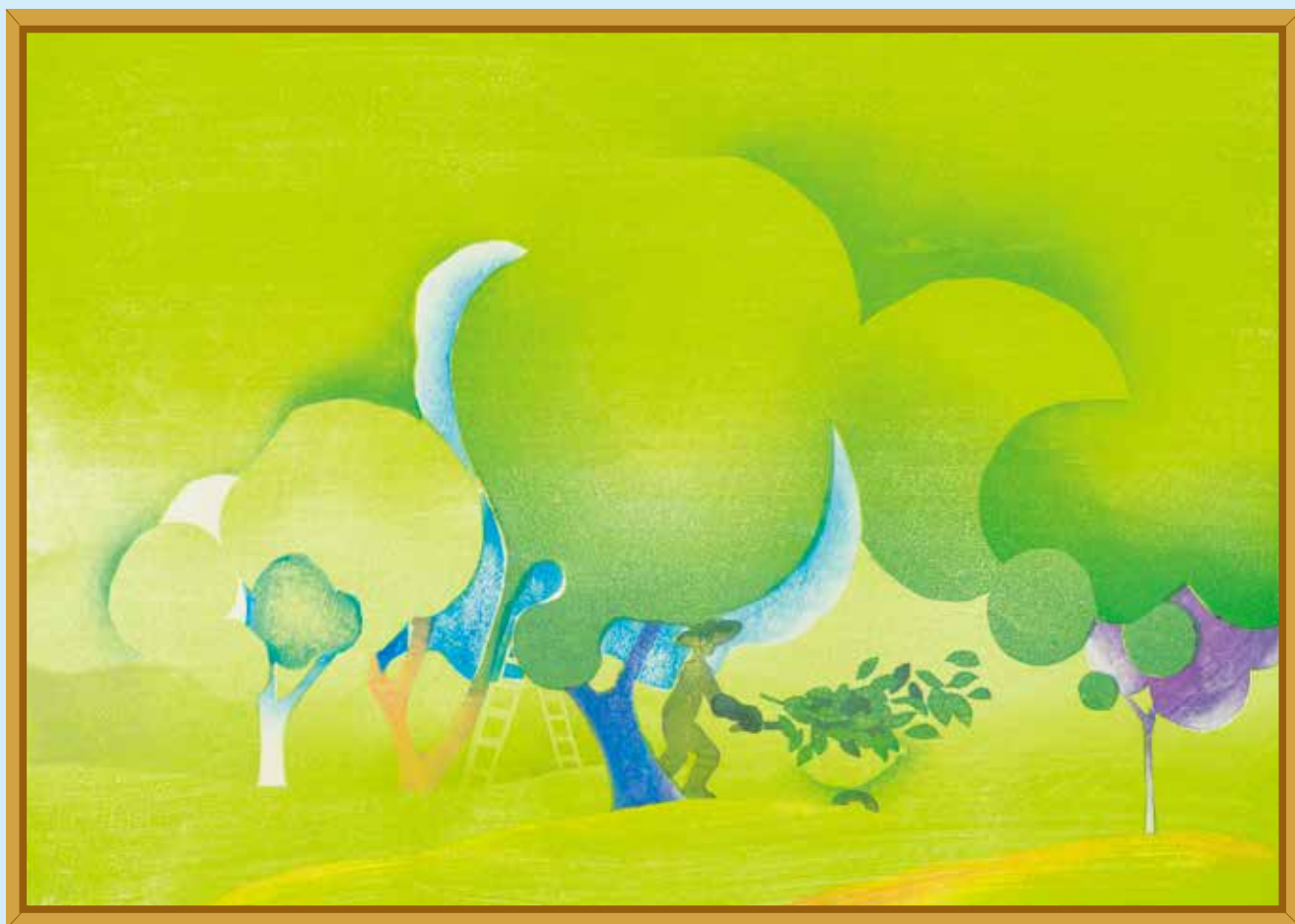
Colony Tokyo

コロニーとうきょう

Vol. 163号

2017(平成29)年
7月1日発行

社会福祉法人 東京コロニー
〒165-0023
東京都中野区江原町 2-6-7
TEL 03-3952-6166
FAX 03-3952-6664
<http://www.tocolo.or.jp/>
(法人本部 事務局)



アートビリティギャラリー [38] Momoca (ももか)さん 『夏の仕事』(詳しくは27頁をご覧ください。)

時評

2017年度事業計画

法人の主な動きから

とびっくす

2016年度事業報告

法人本部・コロニー中野・トーコロ生活支援センター(〒165-0032 中野区鷺宮3-18-15(仮移転先))・中野区仲町就労支援事業所(〒164-0011 中野区中央3-19-1)・中野区中野福祉作業所(〒165-0027 中野区野方1-35-8)・トーコロ情報処理センター 事業部・職能開発室・デジタルメディアセンター(〒170-0005 豊島区南大塚3-43-11 福祉財団ビル6F)・東京都葛飾福祉工場(〒125-0042 葛飾区金町2-8-20)・立石工場(〒124-0012 葛飾区立石8-50-1)・コロニー東村山・アートビリティ(〒189-0001 東村山市秋津町2-22-9)・東村山市障害者就労支援室(〒189-0014 東村山市本町1-1-1)・東京都大田福祉工場(〒143-0015 大田区大森西2-22-26)・城南島工場(〒143-0002 大田区城南島4-3-9)・トーコロ青葉ワークセンター・トーコロあおば就労サポートセンター(〒189-0002 東村山市青葉町2-39-10)・国分寺戸倉寮(〒185-0003 国分寺市戸倉1-21-9)・東久留米第一氷川台寮・東久留米第二氷川台寮(〒203-0004 東久留米市氷川台2-31-22)・東久留米第三氷川台寮(〒203-0002 東久留米市神宝町2-14-26)・えはらハイツⅠ、Ⅱ、Ⅲ・中野江原短期入所・中野区日中一時支援(〒165-0023 中野区江原町3-23-2)・天神山こあらハイツ(〒202-0013 西東京市中町3-10-9)

時 評

終わりと始まり

理事長 中村 敏彦

はじめに

先日、コロニー中野・法人ビルの建て替えに伴う解体工事の進捗状況を確認するために立ち寄りました。スケジュール的には、概ね順調ということでありましたが、建物の半分が取り壊されている様子を見て、ようやく建て替えて着手することができたという安堵感と共に、これまで48年もの間、私たちが私たちの事業を支えていただいたという感謝の思い、ますます気を引き締めて取り組まなければならない重責の思いなど、歴史の終わりと始まりを同時に感じる貴重な時間になりました。他の事業所の解体工事では途中経過を見ることは叶いませんでしたが、

間近にいた当該事業所の皆さまも同様の気持ちを持たれたのではないかと思います。

私たちの事業は、歴史を刻むその時代に関わる人たちや社会環境によって様々な結果をもたらしました。先代たちの活動は現在の障害者福祉に影響を与えてきたとも言えます。時には環境に順応し、あるいは戦い、また、維持し継続するため、生き抜くため、生活を向上させるために必死になり、将来に備えることや、備えることすらままならないことも多くありました。当法人が現在も事業継続できていることに、先代の皆さま、支えていただいた関係者の皆さま、そして仲間たちに改めて感謝の意を表します。

当法人はこの数年、数カ所におよぶ施設整備事業を国や東京都、中野区の補助を受けて進めています。この過密状況は決して望んだわけではなく、民間移譲や老朽化などといった必然性のもとに進めざるを得ない状況がありました。自己資金の調達にも苦勞し、返済も容易ではないことを自覚しつつも、地域社会の重要な社会資源になり得るためにも、その期待に応えていく責任があります。

すでに始まっている国の社会保障大改革にも注視し、障害分野からみた問題や課題については、さらに敏感になりたいと思います。私たちの事業を必要とする人たちの生活や環境を向上

させるために、また、すべての人の自由と尊厳が守られ、平和で人間らしい生活ができるように、これからも毎日、そして、将来に備えて努力を続けたいと思います。引き続き、皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

報道の重要性と国の責任

わが国が国連障害者権利条約を批准したことは、関係者の間では周知が進んでいます。しかし、社会で起こっている様々な事象からは、圧倒的に啓蒙活動が不足していると思えますし、社会全体に浸透しているかといえれば大いに疑問が残ります。さらに、批准したことで障害のある人たちの暮らしが改善しているかという点でも実感が薄いのが現状です。昨年起こってしまった入所施設での偏った優生思想による殺傷事件には衝撃を受けざるを得ませんでした。偏ったと書きましたが、これは正しくはありません。私たちは、この事件をきっかけに、優生思想は社会に根強く存在している事を痛感させられました。私たちは、そのことを決して受け入れることはできません。

そして、この思想は障害分野に限ったことではないことも現実です。自己責任をベースとした市場原理の中では、過度な市場競争が生まれ、公平性どころか、格差が助長され、役に立つ

か立たないか、生産性が高いか低いかで人間の価値まで問われかねない状況があります。地域で誰もが助け合い共生する社会を実現するためには、一人ひとりが安心して暮らせる環境が必須条件です。

憲法第14条には「すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」と規定されています。マイノリティーを大切にすることが軽薄な社会になつていくことに危機感を覚え、一人ひとりはみんな違うことを認め合い、理解することやお互いの立場に立つてみることで、尊敬することを大切にしたいと思えます。

飲料の自動販売機を挟んで、営業職とび職の人が互いの違いを軽視します。しかし両者は、改めて互いの働いている様子を想像した時、尊重し尊敬に変化するというコマーションがあります。この数秒間、引き付けられ、共感し、いつの間にか微笑んでいきます。このような傑作はたくさん存在し、人々の心を癒します。

報道は時に偏見や差別を助長し、攻撃に変えるほどの力を持っています。SNSの発展は、人のつながりを電子的に実現できる便利な社会をもたらしました。しかし一方で、対面なしにつながりを持つことで、時には批判され、

論争に巻き込まれ、個人攻撃に発展する可能性を生みます。言論の自由と、発言の無責任とはまったく違うことを理解する必要があります。

多くの人は、報道が大切な情報源になっていることも少なくありません。テレビのニュース番組では、ごく一部の報道とはいえ、国会での与野党のやり取りは、私たち国民が選んだ人の議論とは、とても思えない場面が多く見受けられます。視聴率に拘らない、重要かつ伝えなければならぬことの報道を切に望みます。そして国会では、数にものを言わせた強行採決に終止符を打ち、内容を十分に審議し、私たちが理解できるように公表することを始めていただきたいと思います。

世界の潮流

統計資料の少ない状況で、比較することは容易なことではありませんが、残念ながら日本の障害者福祉は、欧州などの福祉先進国と比べて、同じレベルにあるとは思えません。この数年間で法の整備は進んだものの、国民一人ひとりの意識の醸成が追い付いていないと感じるのです。

先日、NHKのEテレで放送された地球ドラマチック「海辺のフォックスホテル」ちょっと特別な若者たちの日々」を観て、とても元気をいただきました。イギリスにある人気のリ

ゾートホテルで、新人研修生たちが育つ過程をドキュメントした内容です。そのホテルに入ってくる人たちは、自閉症やADHDなどさまざまな困難を抱える若者たちです。ここでは自立を目指しながら、3年間、徹底的に接客サービスの業務経験を積むのですが、初めて親元を離れた寮生活や、働くというこ

と、もがきながら自立への道に挑む若者たちの姿と、それを厳しくも温かく導く大人たちの日々を明るく描いています。

我がままで、仲間とも頻繁にトラブルを起こす若者に対して、厳しさと優しさと辛抱して見守る、あきらめないスタッフたちがそこにはいました。そして、何よりも一人ひとりの障害を個性のようにとらえ、人権を尊重して向き合うスタッフたちの取り組みには感心させられました。もしかしたら特別な良い事例かもしれませんが、国内にもこのような取り組みはあると期待もしたいと思います。人間関係は、お互いを尊重するところから生まれることをつくづく感じました。

障害を理由にした偏見や差別は終わりにしましょう。障害者権利条約により、配慮や支援が必要な人にはそれが保障され、普通に社会生活を送れるように包容されるべきという考え方が世界的な潮流になっています。条約の政策過程でも同様の議論があり、当事者たちは自分たちの意思で選択しまし

た。新しい時代の始まりです。

現実的な対応

一方で、入所施設で暮らし、施設で働き、家族に依存しなければ生活に困難が生じる人たちが存在していることは看過できません。

わが国では、障害のある人たちの生活実態の資料は少なく、障害者政策自体への世論の関心も非常に低い現実があります。家族や親せき、友人などに障害のある方がいれば違うのでしょうか、多くの人は障害のある人に触れ合う機会が少なく、まして、施設に対する一般的な評価は、多くの障害者は閉鎖的な施設で教育を受け、生活し、働いており、一般社会から隔離されているという認識でしかありません。しかし、社会活動を通じて、偏見や差別的対応によって、つらい経験をしたことのある人たちが存在している事実に着目することが重要です。

社会の無理解や無関心は終わりにしなければなりません。

そのことが実現できるまでは、隔離された特別な場所などと安易に発言してはしくはなりません。私たちにとっては大切な場所であることも理解すべきです。そして、公的支配の強い環境ではありますが、開放的で地域社会とのつながりも充実し、一人ひとりが社会貢献にも関わっていることや、その

取り組みを理解していただけるよう、私たちも発信し続けることを始めなければなりません。

積年の課題

障害者施策における所得保障を伴う働き方の問題を、どのように改善していくかは、私たちにとっては最大のテーマであり、積年の課題ですが、なかなか終わりが見えてきません。

障害者権利条約批准後の締約国報告では、第26条「ハビリティション」及び第27条「労働及び雇用」には、障害者総合支援法を根拠とした就労支援事業について、残念ながら一切記載がありませんでした。それは、労働施策から排除されているとも受け取れます。しかし、私たちの就労事業で働く人たちは、間違いなく労働者です。障害ゆえの個人差が大きいくにすぎません。今後の超高齢化、少子化社会を背景に、根本的な社会保障基礎構造改革を目指しているのなら、障害者の所得保障を伴う労働問題でも、根本的な議論が始まることを願って止みません。



2017年度 事業計画

1. はじめに

前年度は、先進各国のリーダーが入れ替わる中で、国際協力・連携が大きく乱れ、経済、貿易、難民、テロなどあらゆる面で緊張状態が増大しました。本年度も引き続き、とりわけ戦争や紛争などには巻き込まれないよう、わが国の平和維持に注視していきたいと思えます。

本年度の経済状況は、官公需の下支えのもと、緩やかな景気回復基調が続くと報道されていますが、一方で、先に記述した世界規模の変動により、経済や金融の現在の状況に極めて大きな影響を与えることが危惧されます。また、実感としては厳しい意見が多く、消費税増税も先送りされる中、先行きの見通しが困難な状況にあります。

国連障害者権利条約を批准してから3年目、実質的に障害者の暮らしの質はどのように向上してきたのでしょうか。本年度は、第3次障害者基本計画の最終年度にも当たり、障害者総合支援法3年後の見直しも含めた第4次基本計画の策定にも着手されます。

本年度は改正社会福祉法を根拠にした事業運営がいよいよ本格的に施行され、私たちを取り巻く環境は確実に変化します。常に当事者の視点でとらえ、運動面では関係団体と連携して障害者福祉の向上のためにより一層の努力を行うこととします。

本年度の最大の課題は、激変することが予測される社会福祉の環境の変化に柔軟に対応し、障害のある人の暮らしを支え続けられる事業を継続すること、さらには、建て替え等の大事業を段階的に実行していくことです。新たな中期事業計画を具現化するために、事業本部制や法人本部の在り方などを含めて検討し、将来の法人像を意識しながら、各拠点が自立した事業運営に最大限努力しつつも、お互いに課題を共有し、法人全体で協力していくこととします。

2. 事業方針と予算の特徴

本年度の事業方針は、障害福祉サービス事業の充実と就労支援事業のさらなる改善を目指すものです。財務管理については社会福祉法人新会計基準に則り、この数年間で見直

してきました。各拠点では相当の努力を要し、必要な積立金や財務管理に取り組み、経営改革に努力してきました。本年度も、就労支援事業の維持向上はもとより、従業員の処遇改善、利用者の重度・高齢化に備え、福祉の専門性の向上にも、さらに努力していかなければなりません。各主要会議で法人全体の課題を共有し、必要な対応を図ることとします。

(1) 経営の基本方針

- ・ 改正社会福祉法に伴い、環境の変化ならびに経営理念や倫理、社会的役割に伴うコンプライアンスやガバナンスの重要性に常に視点を置き運営にあたります。
- ・ 福祉サービスの質的向上のために、第三者サービス評価機関の審査を受けるとともに、苦情解決第三者委員制度の実施や広報誌やホームページ等による情報開示に取り組みます。
- ・ 経営や福祉の専門性を向上することを目的とした教育、研修の充実を図り、計画的に実施します。また、人事考課制度を含めた給与規程の改定を具体的に進

め、人材確保や人材育成に努めます。

・法改正や業務改善などに伴い、法人の規程等を必要に応じて見直していくこととします。

(2)財務・資金管理

・会計顧問の指導を受けながら、新会計基準により精度の高い管理に努めます。

・将来必要となる資金については、拠点ごとに認められている範囲で計画的に積立を行うこととします。

・財務や資金管理については、原則に従い拠点ごとの経営努力によるものとしますが、法人本部は全体を把握し拠点間の窓口となって調整に努めます。

・可能な限り法人内部の資金活用比率を高め、外部からの借入金金の圧縮を図ります。

(3)事業の継続

・常に経営改善に視点を置き、継続可能な事業への体質改善を図ります。

・民営化や老朽化に伴う事業所の建て替えは、法人全体の協力を

得ながら補助認可に従って順次実施していきます。国や地方自治体の補助が得られない場合は、事業の規模や時期などを含め事業計画の見直しも視野に入れます。

・一部の拠点で着手しているBCP（事業継続計画）を全拠点で策定します。

(4)他の団体との協力連携

・障害者福祉の向上のために、内閣府、厚生労働省、経済産業省ならびに、東京都、各区市自治体、全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会、一般社団法人ゼンコロ、特定非営利活動法人日本障害者協議会、全国社会就労センター、日本セルフセクター、東京都セルフセクターなどにおいて積極的に役割を果たします。

・従業員等が、対外的な立場において十分に役割発揮ができるように、可能な限り配慮し支援していくこととします。

(5)地域活動

・拠点ごとの地域活動においては、

各自自治体との連携を深め情報交換を密にしながら、地域福祉の向上ならびにニーズに応じた障害者福祉の充実に努めます。

・地域の福祉関連ネットワークには積極的に参画することで、地域の重要な社会資源になり得ることを目指します。

3.各事業本部の計画概要

各事業本部ならびに拠点では、就労（受注、生産、販売等）支援事業で利益を出すことを前提とします。社会福祉法人に対する期待にこたえていくためには、自らの体力で事業を継続し法人全体を支えていくことが求められます。既存事業の充実に努力するとともに、事業内容の見直しや新規事業への取り組みなども並行して進めていくこととします。

(1)法人本部（事務局）

年間の教育研修計画を立案し所長会に提案します。また、法人全体の財務運用ならびに、各拠点の事業運営に貢献していくことに最大限努力し、事務処理部門の連携によりの確な情報提供・共有に努

めます。プライバシーマークの認証取得法人として、個人番号を含めて、その維持・向上に各事業所と連携して取り組みます。また適宜、必要な情報提供、集約に努め、各行政窓口との折衝についても、事業所と連携して積極的に関わりを持つこととします。

(2)福祉事業本部（グループホーム等、トータル生活支援センター）

既存の居宅支援事業などを着実に遂行し安定した運営に努力します。加えて、就労支援事業所の所在する地域のニーズに応じてグループホームの増設を検討し、段階的な拡充に努めるなど、障害のある方たちの暮らしの質を向上できるように努めます。中野区の特定相談支援事業「ころまっぷ」を継続して運営します。

(3)IT事業本部（トータル情報処理センター（事業部、職能開発室、デジタルメディアセンター）

事業本部下の連携を継続し安定した事業運営に努力します。法人内では、ICT（情報処理および情報通信）技術等を介して法人内

各事業所に関わり、ネットワーク委員会などをつうじて横断的に役割を果たします。IT関連の事業面では、顧客への丁寧な対応や技術力を活かし既存顧客の深耕ならびに新規顧客の獲得など、さらなる経営努力を図ります。

障害福祉サービスの制度で対応できない事業領域において、公益事業により取り組みつつ、社会環境の変化を見極めながら、将来的には障害福祉サービス事業への転換も検討することとします。引き続き民間のハローワーク業務の認定法人としての役割や、受託事業である東京都障害者IT地域支援センターの事業を継続することとします。

(4) 社会就労事業本部(コロニー中野、中野区仲町就労支援事業所、中野区中野福祉作業所、コロニー東村山、トーコロ青葉ワークセンター)

中野地区では、コロニー中野・法人ビルの老朽化に伴う建て替えにおいて、国の前年度末補正予算による社会福祉施設等施設整備補

助事業の内示を受け、確実に実施できるよう準備を進めています。

指定管理事業所では管理・運営の充実を目指しますが、その内、中野区中野福祉作業所は(仮称)中野5丁目障害者多機能型通所施設の社会福祉施設等施設整備補助事業が決定し、建設工事が始まるとともに遅滞なく移転への準備を進めます。三多摩地区では、東村山市障害者就労支援室や特定相談支援事業「ふきのとう」、放課後等デイサービス事業「アリーバ」での役割を發揮するとともに、既存事業の運営では福祉サービスのさらなる向上に努力します。就労支援事業においては、品質管理や生産性・収益性の向上に努め、とりわけ印刷事業においては、売上確保、コスト削減によりさらなる経営改善に努力し、段階的に新規事業への転換にも継続して取り組みます。

(5) 福祉工場事業本部(東京都葛飾福祉工場、東京都大田福祉工場) 東京都葛飾福祉工場(金町工場)の建て替えは、東京都の民間移譲施設整備費補助事業により無事終

了し、前年度6月に開所することができました。水耕栽培を新たな就労支援事業として開始するとともに、主幹事業においては堅実な運営に努めることとします。東京都大田福祉工場の建て替えは、東京都の民間移譲施設整備費補助事業により今年度末には竣工する予定ですが、城南島工場は次年度にまたがり移転を予定しています。印刷事業は、障害者優先調達推進法を活用するなど売上高の確保に努力し、売上高の減少には歯止めがかかりつつあります。城南島工場の移転時期を用途に法人内事業所との連携や作業工程の分業化なども視野に、法人全体の印刷事業として事業規模に応じた再構築を検討します。

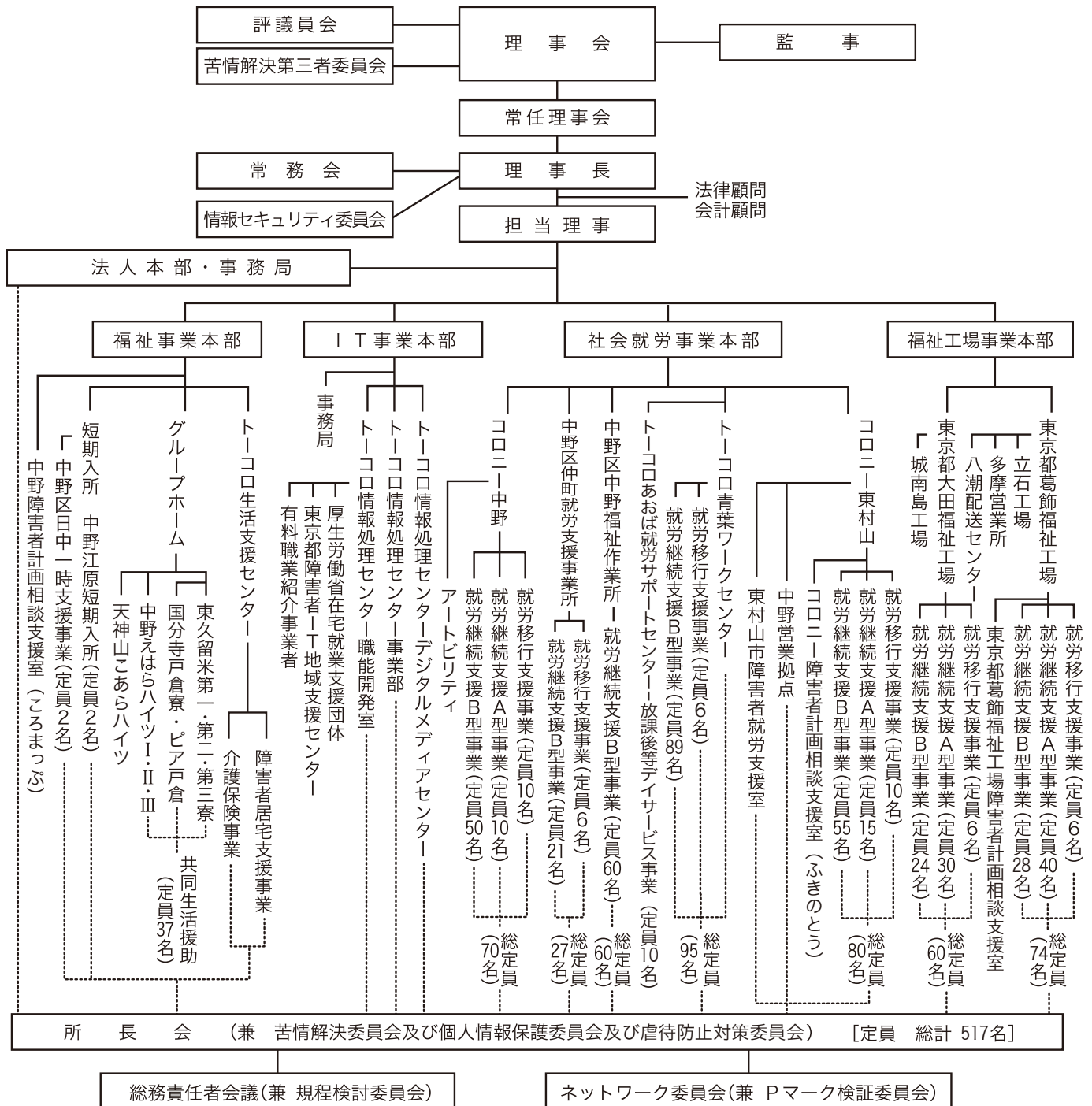
資金収支次期当初予算

2017年 2月16日

(単位：円)

勘 定 科 目			当年度予算額	次期予算額	増 減
事業活動による収支	収入	就労支援事業収入	5,214,402,000	5,389,652,000	175,250,000
		障害福祉サービス等事業収入	952,611,680	966,142,640	13,530,960
		その他の事業収入	304,684,000	300,814,000	-3,870,000
		借入金利息補助金収入	830,000	670,000	-160,000
		経常経費寄附金収入	9,210,000	9,210,000	
		受取利息配当金収入	3,564,000	1,522,642	-2,041,358
		その他の収入	31,603,000	30,922,000	-681,000
	事業活動収入計(1)		6,516,904,680	6,698,933,282	182,028,602
	支出	人件費支出	722,601,993	747,304,300	24,702,307
		事業費支出	75,932,000	65,672,400	-10,259,600
		事務費支出	194,611,748	204,368,000	9,756,252
		就労支援事業支出	5,017,100,220	5,158,563,000	141,462,780
		その他の支出	254,175,200	252,963,730	-1,211,470
		利用者負担軽減額	6,699,680	7,390,300	690,620
支払利息支出		10,535,000	9,110,000	-1,425,000	
その他の支出	6,426,000	5,798,000	-628,000		
事業活動支出計(2)		6,288,081,841	6,451,169,730	163,087,889	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		228,822,839	247,763,552	18,940,713	
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	99,673,000	312,751,000	213,078,000
		設備資金借入金収入	600,000,000	541,649,000	-58,351,000
		その他の施設整備等による収入	372,472,752	4,925,000	-367,547,752
		施設整備等収入計(4)	1,072,145,752	859,325,000	-212,820,752
	支出	設備資金借入金元金償還支出	14,630,000	14,630,000	
		固定資産取得支出	1,267,683,094	1,099,078,200	-168,604,894
		固定資産除却・廃棄支出	450,000		-450,000
		ファイナンス・リース債務の返済支出	6,300,000	7,700,000	1,400,000
		その他の施設整備等による支出	17,210,000	11,684,000	-5,526,000
	施設整備等支出計(5)		1,306,273,094	1,133,092,200	-173,180,894
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		-234,127,342	-273,767,200	-39,639,858
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	180,100,000	140,783,800	-39,316,200
		事業区分間長期借入金収入	35,000,000		-35,000,000
		拠点区分間長期借入金収入	118,144,000	104,783,800	-13,360,200
		事業区分間長期貸付金回収収入	1,400,000	1,400,000	
		拠点区分間長期貸付金回収収入	20,000,000	21,000,000	1,000,000
		事業区分間繰入金収入	6,075,348	6,971,366	896,018
		拠点区分間繰入金収入	188,824,784	171,970,824	-16,853,960
		サービス区分間繰入金収入	1,916,000	1,442,727	-473,273
	その他の活動による収入計(7)		551,460,132	448,352,517	-103,107,615
	支出	長期運営資金借入金元金償還支出	5,000,000	3,000,000	-2,000,000
		積立資産支出	59,593,000	80,513,000	20,920,000
		事業区分間長期貸付金支出	35,000,000		-35,000,000
		拠点区分間長期貸付金支出	118,144,000	104,783,800	-13,360,200
		事業区分間長期借入金返済支出	1,400,000	1,400,000	
		拠点区分間長期借入金返済支出	20,148,000	21,000,000	852,000
		事業区分間繰入金支出	6,088,165	6,971,366	883,201
		拠点区分間繰入金支出	188,824,784	171,970,824	-16,853,960
		サービス区分間繰入金支出	1,916,000	1,442,727	-473,273
		その他の活動による支出	8,555,000	8,505,000	-50,000
	その他の活動支出計(8)		444,668,949	399,586,717	-45,082,232
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		106,791,183	48,765,800	-58,025,383
予備費支出(10)		128,960,701	116,075,552	-12,885,149	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		-27,474,021	-93,313,400	-65,839,379	
前期末支払資金残高(12)			2,092,182,848	2,092,182,848	
当期末支払資金残高(11)+(12)			2,064,708,827	1,998,869,448	-65,839,379

【組織図】



評議員・役員一覧

評議員 朝 日 雅 也	県立大学教授	理事 中 村 敏 彦	理事長
評議員 柿 沼 一 彦	元 社会福祉協議会事務局長	理事 鬼 頭 克 介	常務理事・事業本部長・所長
評議員 鈴 島 妙 子	社会福祉法人理事長	理事 加 藤 留美子	事業本部長・所長
評議員 高 橋 毅	社会福祉法人常務理事	理事 今 西 康 二	事業本部長・所長
評議員 外 川 勝 久	設計コンサルタント会社調査役	理事 吉 村 謙 次	副所長
評議員 富 澤 みち子	前 当法人事業所総務部長	理事 湯 浅 克 己	事業副本部長・所長
評議員 松 村 正 一	公認会計士	理事 星 忍	事業副本部長・所長
評議員 湯 田 正 樹	前 就労移行支援事業所所長	監事 加 藤 一 志	公認会計士
評議員 ラガウスキー・マイケル	大手商社広報部	監事 山 根 伸 右	弁護士

(50音順)

(就任順)

組織運営表 (2017年7月1日現在)

事業所		事業所番号	責任者
福祉事業本部	法人本部		理事長 中村 敏彦
	法人事務局		事務局長 井上 忠幸
			(担当理事) 本部長 加藤留美子
	障害福祉サービス事業 (居宅介護等) トータル生活支援センター	1311400046 1371402775	事業所長 加藤留美子*
	(グループホーム)		
	東久留米第二氷川台寮	1324500048	
	中野第二江原寮	1321400119	
	天神山グループホーム	1323900702	
	(短期入所) 中野江原短期入所	1311400848	事業所長 近藤 章夫*
	(特定相談支援) 中野障害者計画相談支援室「ころまっぷ」	1331401347	
IT事業本部	事務局		(担当理事) 本部長 鬼頭 克介
	(公益事業) トータル情報処理センターデジタルメディアセンター		事業所長 坂田 利胤
	(公益事業) トータル情報処理センター事業部		事業所長 柴田実千代
	(公益事業) トータル情報処理センター職能開発室		事業所長 堀込真理子
社会就労事業本部	障害福祉サービス事業 (就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型) コロニー中野	1311400715	事業所長 星 忍
	(アートビリティ)		代表 高橋 宏和
	障害福祉サービス事業 (就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型) コロニー東村山 (特定相談支援) コロニー障害者計画相談支援室「ふきのとう」	1313600346 1333600631	事業所長 星 忍*
	東村山市障害者就労支援室		(古谷 雅宏)
	障害福祉サービス事業 (就労移行支援、就労継続支援B型) トータル青葉ワークセンター 障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス) トータルあおば就労サポートセンター「アリーバ」	1313600320 1352700148	事業所長 六川 洋*
	障害福祉サービス事業 (就労移行支援、就労継続支援B型) 中野区仲町就労支援事業所	1311401085	事業所長 秋谷 直子*
	障害福祉サービス事業 (就労継続支援B型) 中野区中野福祉作業所	1311401226	事業所長 今西 康二*
			(担当理事) 本部長 鬼頭 克介 副本部長 湯浅 克己
福祉工場事業本部	障害福祉サービス事業 (就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型) 東京都葛飾福祉工場 (金町工場) (立石工場) (特定相談支援) 東京都葛飾福祉工場障害者計画相談支援室 (ハ潮配送センター)	1312201476 1332201878	事業所長 鬼頭 克介*
	障害福祉サービス事業 (就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型) 東京都大田福祉工場 (大森工場) (城南島工場)	1311101735	事業所長 湯浅 克己*

*障害福祉サービスにおける管理者 () 内は現業責任者

法人の主な動きから

社会福祉法改正への対応と、 新築・建て替えの 進捗状況について

2017（平成29）年度に入り、4月1日付で社会福祉法改正の第2段階が施行されました。役員体制をはじめとする法人全体の執行機関、議決機関が法により整理され、外部会計監査人の設置をはじめとする運営の適正化、ガバナンスの確立など多くのことがこの改正によって義務付けられることになりました。昨年度より準備は進めていましたが、間際になっていろいろと変更がなされてくる届け出の仕組みなど拙速感が否めません。多くの社会福祉法人はこの法改正により相当なご苦労をされていることと思います。

一方、法人内では現在3つの拠点

において、新築や建て替えの事業が進められています。

前年度竣工した東京都葛飾福祉工場に続き、東京都大田福祉工場が平成29年度民間移譲施設整備費補助の対象となり、本年4月より着工しております。現在、場内整備、杭工事を終え基礎工事に入りつつあります。竣工は来年4月頃を予定しています



整地された東京都大田福祉工場の建設地

が、それを機に城南島にある分工場（印刷・製本）が移転し、ひとつの大田福祉工場となります。その後、現在使用している旧宿舍棟は解体されます。

また、中野区の公募で第一順位となった（仮称）中野5丁目障害者多機能型通所施設につきましても平成28年度障害者（児）施設整備費補



（仮称）中野5丁目障害者多機能型通所施設 建築の様子

助の対象となり、本年1月より着工しております。中野区単独事業の緊急一時保護や短期入所、東京都重症心身障害者通所事業、地域開放スペースや医療機関の機能を備えており、利用希望者並びにその関係者の皆様、事業者向けの第1回説明会の開催を終えました。竣工予定は11月末ですが、事業開始は2018（平成30）年4月1日となっております。竣工後は内覧会や説明会をはじめ障害福祉サービス事業開始に向けて円滑にスタートできるように準備を進めることとなります。

そして2014（平成26）年度より障害者（児）施設整備補助の老朽改築で申請しておりましたコロニー中野につきましても2017（平成



コロニー中野、法人本部ビル取り壊しの様子

29) 年度障害者(児) 施設整備費補助補正予算において採択され、改築することとなりました。東日本大震災以来外壁の爆裂や建物の亀裂などが顕著となっており、ここ数か月においては2階建屋の方で柱に沿った縦の亀裂が入り始めていたため、その危険性について何度も東京都福祉保健局に足を運び、ようやく今回の改築申請が採択となりました。工期も短く集中的に工事を行う必要があるため、建設業者の皆様や設計監理の皆様には雨の日も解体工事を行っていたりなど、何とか本年度内の竣工を目指しているところです。

先に整備が完了している東京都葛飾福祉工場をはじめとして、どの拠点におきましても地域ニーズを勘案し、今後地域の中心拠点となりうるような機能を持った施設になることを目指しております。

事務局長 井上忠幸

法人実務者研修を開催

5月16日(火)の午後、法人全体での実務者研修を中野区中部すこやか福祉センターの会議室をお借りして行いました。本研修は、法人の障害福祉サービスにおける支援の質の

向上を目的に、サービス管理責任者会議として企画、開催したものです。各事業所から、次期サービス管理責任者候補者、現場の支援担当者等、計19名が参加しました。

前半は、IT事業本部職能開発室の堀込真理子所長による「職能開発室での重度の障害のある方への就労支援——IT機器の活用も含めて——と題した講演でした。

職能開発室は、「在宅で学び働く」をターゲットに、在宅で受講できるIT教育や在宅雇用・就労支援を行い、その他IT利用支援として東京都障害者IT地域支援センターの運営を受託しています。これまでも、さまざまな場面で講演や研修を依頼されていますが、「働き方改革」でテレワ



障害のある人の「働く」を支えるIT機器やアプリ

ークを推進する、国も注目している先進的な取り組みについて、私たちも改めて学ぶことができました。また、在宅勤務を支えるIT機器や、合理的配慮としての身近な道具やスマホアプリの活用など、実際にデモしながら紹介があり、とても興味深く楽しい内容でした。

後半は、各事業所からの事例4件が報告され、その後、事例ごとの4グループに分かれてワークを行いました。

東京コロニーは都内に事業所が分散しており、これまでも情報交換は行っていますが、1つの事例に対して、深く話しあう機会はあまりなく、今回のワークでは各グループとも、とても熱心に意見交換を行っていました。

事例提供者は、他事業所での同様の事例からのアドバイスや対応のヒントなどを持ち帰ることができ、また、他の参加者も日々の支援について振り返る機会になったことと思います。

東京コロニーは、「どんなに重い障害があっても、地域でふつうに生活し、働ける」ことを目指して事業を行っています。そのためには、事業所間の情報交換や意見交換、知恵や工夫を結集しながら、法人全体としての支援力をアップさせる取組みが大切だと改めて感じた研修でした。

*テレワーク…出社する代わりに通信機器などを使い、自宅や地方で働く勤務形態。

サービス管理責任者会議委員長
加藤留美子



トピックス

「コロニー中野」

鷺宮の地を思い出す

この度、平成28年度社会福祉施設整備費補助金を受け、無事江原の地での建て替えが決まりました。2年半の悲願であった計画もようやく動き出し、まずは仮移転先である鷺宮への引越しが4月8・9日に行われました。

土日ではありましたが従業員が出勤し、丸二日かけて行われた引越しは、これは：終わらないのではないかとという気持ちに途中襲われながらも、引越し業者の方の素晴らしい手際にも助けられ、日が暮れる頃にはなんとか運び入れ終わりました。翌月曜日は、従業員と一部の利用者さんに出ていただき、火曜日から利用者さんを受け入れるべく、片付けや細かい日常の取り決め、様々な調整に走り、不完全ではありましたが、無事に鷺宮第一日目の朝を迎えます。

ほとんどの利用者さんたちは、初めての通勤経路を時間通りに出勤してきてタイムカードを押し、朝礼では、この地で一年間働くこと、不安なことや困ったことは何でも相談してほしいこと、また江原町に戻るそ



ようやく看板もできました。これで保健所と間違われることもありません。

の日までみんなで頑張っていこうと、所長からお話がありました。色々な面で今までの日常から大きく変化し、本当に狭い鷺宮の事業所では、皆さんそれぞれに何らかのストレスを抱えて仕事をしていると思います。それでも毎日を乗り切っていく利用者さんの笑顔を見ると、一年後への希望があるのはもちろんですが、「働く」ということへの強い気持ちがあるように思います。その気持ちに寄り添い、少しでも不安が取り除けるよう支援していきます。

最後になりましたが、忙しい中、

引越しを手伝っていただいた他事業所の皆さまに、心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

業務課 課長 満富正子

中野区仲町就労支援事業所

就労プログラムについて

中野区仲町就労支援事業所では、1か月に1度就労プログラムを実施しております。テーマについては企業就労に向けて必要な事柄を主に行っております。利用者さんの中で、企業就労について興味関心がある方については、どなたでも参加が可能です。

4月は「健康管理法(生活リズム・睡眠、食事)について」といったテーマで行いました。最初は資料を基に講義、後半はグループワークという内容でした。講義ではよく支援目標等でみられる「生活リズム・睡眠」について重点を置き、正しい睡眠をとることや生活リズムを正しくすることなどが大切なのか、生活リズムを整えるポイントについて等をお話させていただきました。この他食事についても講義を行い、体調管理にな



ぜ食生活が大切であるのか等を話しました。皆さん集中して各自必要に応じてメモも取りながら聞かれていたかと思っています。

グループワークでは「自分が行っている健康管理法」というテーマについて、2つのグループに分かれ話し合いを行いました。どちらのグループも一所懸命話し合いを行っていました。グループワーク後の発表の際、発表する方は少し緊張した様子でした。皆さんから出た健康管理方法は、「バス停を2つ前から歩く」「朝ごはんをきちんと食べる」「睡眠時間がバラバラでも起床時間は一定にしている」「規則正しい生活をする」等まだまだ沢山あり、私も大変驚きました。特に食事について皆さん気を付けていることが多かったように感じます。

終了後のアンケートでは、様々な人の話を聞けて参考になりましたとの意見を頂き、今後参加者の体調管理における参考になればと考えております。

就労プログラムについては、昨年度は事業所内だけでなく、企業や面談会の見学、他機関の方を交えた面談練習、ハローワーク訪問等の外出なども行いました。外部の方の話を聞くことや、実際に企業等を見ることがにより、モチベーションの向上や考え方の視野が広がるきっかけになったのではないかと思います。今後も企業就労に向け様々な方に参加していただけるよう、プログラムを計画、実施していく予定です！

支援課 小松宏美

中野区中野福祉作業所

中野区中野福祉作業所の プログラム活動

中野区中野福祉作業所では2ヶ月に3回を1クールとしたスパンで生活動訓練や余暇の充実を目的としたプログラム活動を行っています。

東京コロニーが指定管理委託を受



過去に行ったプログラムの例。アイロンビーズをつくりました。

ける以前の中野区が運営していた頃には「クラブ活動」があり、1年間参加メンバーを固定した余暇活動を行っていました。2012年度はその活動を継承していましたが、提供する活動の多様化による余暇活動の一層の充実を目的に、2013年度よりプログラム活動へ発展的に切り替えて現在に至ります。

当事業所でのプログラム活動は1クールに三つずつのメニューを提供、クールごとにメニューを変更しています。利用者一人ひとりが年間を通じて複数の様々な活動に参加することができるようになりました。

プログラムの活動を数年にわたって続けていくうち、人気を得て継続

的・断続的に行っているメニューもあります。そのなかのひとつ(ダンス)のプログラムでは毎年参加している「野方まつり」で新しい演目に挑戦するなど、行事との相乗効果も得られました。

その他のプログラムでも「この人は食器を洗うのが上手だったんだ」「この人は絵が得意だったんだ」といった新しい発見に出会う機会もあります。

逆に「意外とこの人はこんなことは苦手なんだ!」ということに気付くこともありますが、作業とは違って「正しい成果物」を求めることがプログラム活動の目的ではありません。得意・不得意の是非ではなく、それらを包



ボウリングも行いました。

摂した利用者個々への発見や理解を深めていく貴重な機会になっています。

毎回異なるメンバーで異なる活動を提供することは決して容易ではありませんが、担当者は継続した活動・新しい活動を織り交ぜながら各クルのメニューを熱心に考えてくれています。2017年度も〈ダンス〉〈調理〉〈手づくりおもちゃの製作〉〈公園へ外出〉など、様々なメニューを行っています。

引き続き利用者の皆さんが毎回来しんでくれていることを励みに多くの活動を提供していきたいと思っています。

支援係長 落合桂太

コロニー東村山

「オーラルピース」特集番組

「コロニーとうきょう」の誌面で何度か紹介させていただいている口腔ケア製品「オーラルピース」の特集番組が3月にテレビ放映されました。放映は地上波では関西限定でしたが、その後BSでも放映されたので、ご覧になった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

日経スペシャル「夢織人」第98回トライフ「弱者を病氣から守る！歯磨きジェル救うのは障がい者!?」という番組で、オーラルピースプロジェクトの全貌を紹介する放送内容。30分の放映時間全てを使って、商品開発の背景から製造工程、実際に使われている歯科医療・介護の現場、小売店での様子などを丁寧に伝えるものでした。

コロニー東村山については、事業を通じた障害者の仕事づくりという視点で、梱包・発送作業の様子のほか、小売店に直接出向いて納品する様子を紹介していただきました。

オーラルピースは、これまでもテレビ、新聞、雑誌などのメディアで取り上げられる機会があり、放映・掲載の直後にはそれなりに反響があったのですが、今回は大反響と言っていたほどのものでした。放映のあった3月は、発送・卸売ともに通常月の二倍以上の取扱量があり、放映後しばらくは商品についてのお問い合わせを多数いただきました。

コロニー東村山で取り扱いを開始した2012年7月にはジェルとマウスプレートの2アイテムのみでしたが、現在ではスカイミントとサンシャインオレンジのフレーバー、さらにはペット用(それぞれジェルとマウスプレート)も展開しています。



ウススプレー)も展開しています。全8アイテムの取り扱いに加え、販促用のパンフレットやPOPなども多数あるので、発送リストのデータ処理、発送時のピッキング作業も当初よりずっと複雑なものになってきました。今後もまだまだ売り上げアップが期待できる事業です。みんなで知恵を出し合いながら、効率よく間違いない作業を心がけていきたいと思っています。

副所長 坂本 崇

日経スペシャル「夢織人」番組ホームページ

<http://www.tv-osaka.co.jp/ip4/yumeshokunin/onair/>

トコロ青葉ワークセンター

カラーオンデマンドプリンター

を導入しました！

「利用者の作業創出とお客ニーズ対応のために」

トコロ青葉ワークセンターの主力業務、メールサービスでは宛名印字や簡易印刷も欠かすことができません。これまでは職員が中心とならざるを得なかった作業ですが、昨年の画像検査装置導入を機に、利用者の皆様の作業参加を増やすことが可能になりました。

一方、受注内容は「窓なしの紙封筒」が減少する傾向にあります。昨年度は一昨年度と比較し、紙封筒に宛名をダイレクト印字する作業は、案件数で14・5%、印字枚数で48・6%減少し、PP封筒(透明フィルムの封筒)や窓付き封筒の使用が増加しています。

この度、①利用者が活躍できる作業を創出し ②お客様の要望により多くお応えし、さらに新たなご提案ができるよう、バリアブル印刷対応のカラーオンデマンドプリンターを導入いたしました。

利用者の活躍を可能にする機能



大容量のペーパーストックカーにより、給紙の回数が減少。そのため、作業者が「ゆつくり丁寧に給紙」しても時間のロスになりません。排紙トレイでは、出力紙が飛び出さずきちんと揃える機能がついており、ピックアップの作業も簡単です。

また、ネットワークパソコンで、プリンターの稼働状況を監視、離れていても用紙切れの他、トラブルを即座に認知し、職員の素早い対応が可能になりました。

お客様のニーズにお応える能力

はがきサイズからA3ノビまでの範囲で、任意のサイズに対応、封筒にも印字可能です。熱転写による用紙のカラーを補正する機能を搭載し、様々な厚さの用紙に印刷でき、さらに表面に凹凸があってもプリントで

きます。その他、高品質の両面印刷、カラー印刷が可能で、宛名の印字以外にも、企業や団体のイメージを活かしたDMやご案内、挨拶状、少量のオリジナル封筒作成、各種バーコードを使ったレスポンス管理など、幅広い提案が可能となりました。

これらの機能・能力によって、利用者の活躍の場とお客様のご満足が、きつと増えることでしょう。増やさねば！

情報処理係長 柴 義直

デジタルメディアセンター

開発環境の改善

昨年の春にデジタルメディアセンター(DMC)に入社して一年が経ちました。まだ新参ですが、開発環境の効率化を考えていてそれを紹介したいと思います。

デジタルメディアセンターでは主にAccessやPHPの言語で業務システム等のプログラムを作成していますが、その開発環境にはまだ改善の余地があると考えています。

効率を上げるためにシステムを構築するためのシステムツールの導

入も検討していたのですが、殆どは理解するには難しく、さらには今までの仕事のやり方を変えてしまうと、新しいやり方の学習が必要となり混乱を招くことが想定してしまうと考えました。

そこで、今までのやり方で似たシステムを何回も開発している点に着目して「よく使う仕組みの実装」を自動化できないかと考えたのです。ソフトウェアやシステムを作る際に仕組みを表す様々な設計情報等だけではなく、開発上の一定のルールや補足情報等様々なノウハウを蓄積することで、実際に動作するプログラムに付加情報を与え問題の発生を少なくするような仕組みを考えています。

これを実現できれば、システムエンジニアが設計したものに不備が発生したとしても、蓄積したノウハウからそのような誤りを検出し訂正を行って、作業効率と品質を高めることができるようになります。

現時点で少し実現できている改善例を挙げると、システム開発に必要な条件を満たしているのかといったチェックを、これまではチェックリストを用意して目視していましたが、今では一部自動化しています。

このような環境整備と研鑽の日々ですが、精一杯形にして共有することにより多くの仕事で結果を出せるように頑張っていきたいと思っています。

また、コロニー中野の建て替えにより法人全体の会議をDMCの会議室で実施されることが多くなってきたことから、お立ち寄りの際は是非ともお声をかけてください。

システム開発係 浅沼伊織

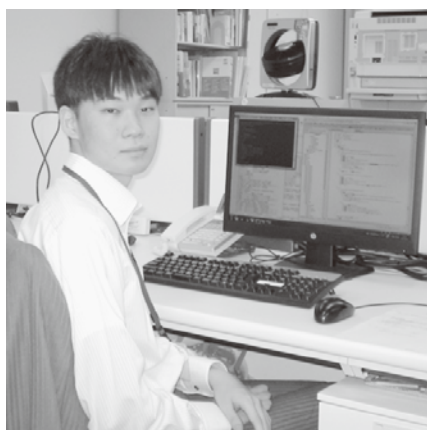
東京都葛飾福祉工場

スペシャルオリンピックス

冬季世界大会で

銀メダルを2個獲得しました！

当工場支援1課所属の吉原圭輔さんが「2017年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・オーストリ





ア(3/18/3/24)にアルペンスキー日本選手団の一員として派遣され、スーパードルフィン(中級09)と大回転(中級06)の2種目に出場し、見事に銀メダルを2個獲得しました。

吉原さんがスキーを始めたのは小学生のころで、これまでも「2012年スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム・福島」に出場し、ジャイアントスラローム(GS)中級で銀メダルを獲得しました。

オリンピックスキの日本選手団に選ばれました。

日頃からランニング等をして鍛えていて、数多くのマラソン大会にも出場していると聞いています。運動神経抜群で行動もいつもスピーディー、無駄な動きがありません。スペシャルオリンピックス開催前も強化合宿や東京都庁への表敬訪問など、とても忙しい日々のなかでもランニングは欠かさず行っていました。

スペシャルオリンピックスに出場するだけでもすごいことですが、普段とてもシャイな吉原さんが、このような大舞台で実力を発揮し、銀メダルを2個も獲得したことに、従業員一同家族のことに嬉しく、とても感動しました。法人内の他事業所の皆様にもご支援や熱い声援をいただきまして、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。

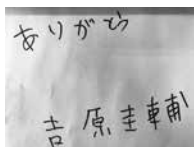


ました。

そして帰国後通所初日には、中村理事長と鬼頭所長が花束を抱え来てくださり、支援1課のみなんでプチ祝勝会を行いました。

4年後もまたスペシャルオリンピックスの日本選手団の一員として、さらに活躍してもらいたいと願っています。

支援1課長 澤地かおる



東京都大田福祉工場

大成功だったOB激励会

2017年3月18日(土)11時~13時に、大田福祉工場の就労支援事業(就労移行支援、就労継続支援B型)から就労を果たしたOBの激励会を行いました。OBは10名が参加し、元気に成長した姿を見せてくれ、中には御家族揃って参加してくださったOBもありました。就労支援室からは利用者15名、支援員10名が参加し、合計40名近くの方が参加する大きな催しとなりました。

今回のOB激励会の準備のため、「OB激励会委員」を利用者から有志で募り、2ヶ月ほど前から打ち合わせを重ねてきました。参加者から大好評だったランチメニューは、カフェ風ワンプレートカレー、ケーキ、コーヒ、紅茶、お菓子などです。OBの方たちはお客様なので委員がホスト役となり、OBの皆さんに楽しんで貰おうという考えのもと、各委員が積極的に意見を出し合い、メニューや進行を決めていきました。そして、当日には「手伝いますよ」と自主的に早く来てくれるOBにも助けられ、ランチメニューの調理を完成させる



ことができました。
OBの自己紹介タイムでは、自分の働いている企業の名前、仕事内容などを発表してもらいました。皆、顔つきも逞しくなり、自分の今の仕事に自信や、やり甲斐を感じている表情が印象的でした。就職を目指している利用者の皆さんからの質問タイムも設け、成功実体験を聞けるとても良い機会となりました。また、会のあとには支援員と相談室で面談



をする時間を設け、近況報告や、困っている事、気になっている事などを話し合うことができました。

就職し、大田福祉工場を退所しても「大田福祉工場に來たい」「仲間や支援員と会いたい」とOBの皆さんがこの会を楽しみに参加してくれることを、とても嬉しく感じます。

今年の夏もOB激励会を予定しているため、OBの皆さんにとっては楽しく、支援室の利用者の皆さんにとっては就労への意欲にも繋がられるような会にしていきたいと思っています。

就労支援室 名取敬久

福祉事業本部

小規模グループホームにも 自動火災報知設備

国分寺戸倉寮は東京コロニーが初めて開設したグループホームです。平成9年に運営を始めて20年が経過していますので、消防基準がかなり古い時代に作られた建物ということになります。

これまで、300㎡未満の小規模グループホームには、自動火災報知設備は求められませんでした。2015年4月の消防法改正で全てのグループホームに設置が義務付けられました。

そのため、今年1月には二人定員の中野区にあるえはらハイツⅢに自動火災報知設備を設置し、また、この度5月に国分寺戸倉寮にも設置しました。



年々厳しくなる消防法ですが、昨年6月に平成29年度グループホーム等安全対策事業に係る補助協議を提出し、今年4月に交付決定されたことで、平成30年3月までの設置に間に合わせることで、一安心しました。また、避難口を明確にするために誘導灯も設置しました。

何よりも火災が起きないように注意して寮の運営をしなくてはなりません。いつ何時火災が起きても、速やかに入居者の避難誘導ができるよう国分寺戸倉寮をはじめ、東久留米氷川台寮、中野江原寮、西東京市の天神山グループホームでは避難訓練を二カ月に一度実施しています。

入居者の皆さんの安全確保のために、これからの防災意識を高く持たたいと思っています。

グループホーム課長 高塚孝太郎

2016年度 事業報告

1. はじめに

本年度は、わが国にとって憲法公布70周年、国連加盟60周年目という節目の年でありました。国際情勢は経済危機、人種、宗教、資源など様々な問題で緊張は続いており、わが国が影響を受けない、あるいは巻き込まれないことに注目せざるを得ない1年でした。

国連障害者権利条約を批准してから3年目に入り、国内の障害者の社会環境の発展状況をまとめた締約国報告が、6月末に国連障害者権利委員会に提出されました。一方、市民団体ではパラレルレポートのまとめを本格的に開始し、当法人も関係団体と連携して意見を出しており、2017（平成29）年の秋頃を目途に草案をまとめる予定です。

4月14日および16日未明にかけて、熊本地方を震央とする観測史上初めての、震度6強から7を記録する大地震が立て続けに発生しました。当法人が所属する一般社団法人ゼンコロの会員法人も被害を受けたことに伴い、

直ちに募金活動に取り組みとともに、JDF（日本障害フォーラム）を中心とした支援センターには継続して支援員を派遣しました。また、7月26日には、相模原市にある県立の大型入所施設で19人もの命が奪われ、27名もの人が重軽傷を負うという、過去に例のない悲惨な殺傷事件が発生しました。容疑者は元職員であり、決して受け入れることのできない優生思想に基づいた行動であり、二重の衝撃を受けることとなりました。当法人では各拠点における防犯対策を徹底するとともに、急きよ、人権や差別、虐待等について改めて学ぶ研修を計画し、実施しました。また8月15日には、盲導犬を連れた視覚障害者が駅のホームから転落して死亡するという痛ましい事故も発生しました。いづれも障害が理由であり、障害者があたりまえに生きていくことが、いかに困難な社会であるかが露呈したともいえます。人権尊重の重要性を改めて認識し、事業運営の要にしていきたいと思います。

本年度は、激変する社会福祉をとりまく環境に柔軟に対応し、障害のある人の暮らしを支え続けられる基礎体力を再構築すること、また、建て替え等の大事業を段階的に実行していくことを事業の柱に取り組みしました。

12月の障害者週間にちなみ、東京コロニー開設以来、初めての天皇皇后両陛下による行幸啓が東京都葛飾福祉工場にありました。厚生労働省をはじめ、関係機関のご指導により執り行われ、両陛下には温かいお言葉をかけていただきました。

2. 方針に対する運営結果

本年度の事業方針は、障害福祉サービス事業と就労支援事業の抜本的改善を目指すもので、財政面では必要となる事業所の建て替えなどを視野に入れながら、事業の継続に全力を挙げて取り組みました。各拠点の課題については法人全体で共有し、必要資金の積立などを段階的に実施することや、改めて中期事業計画を長期

的な展望に基づき見直し、課題を残しつつも以下の通りとなりました。

(1) 経営の基本方針について

- ・ 社会福祉法改正に基づき、经营理念や倫理、社会的役割を重視した定款に変更し、法改正や業務改善などに伴う法人ガバナンスの構築や規程等を見直しました。

- ・ 福祉サービスの質的向上のために、第三者サービス評価受審の準備、苦情解決第三者委員制度を継続し、情報開示については広報誌やホームページ等を活用しました。

- ・ 経営や福祉の専門性を向上することを目的とした教育・研修、ならびに人権に関する内容を含んだ研修を計画に基づき実施しました。

- ・ 人材確保・育成・定着を目的に、前年度に給与規程改定にプロジェクトを組織し、年度当初から実施する予定でしたが、事業体力や拠点間の調整には、より

慎重に進める必要があると判断し、次年度から実施できるよう協議を進めました。

(2)財務・資金管理について

・会計顧問の指導を受けながら、社会福祉法人会計基準により精度の高い管理に努めました。

・将来必要となる資金については、体力にに応じて制度で認められている範囲で計画的に積み立てを行いました。

・財務や資金管理については各拠点の経営努力を原則としていますが、法人本部は、建て替え等で新たに必要になる資金や緊急時の運転資金等を含め、拠点間の窓口となつて全体を把握・調整に努めました。また、可能な限り法人内部の資金活用の比率を高め、外部からの借入金は、新たに発生した建て替え資金を除き、圧縮に努力しました。

(3)事業継続について

・常に当事者の視点を持ち、福祉サービスの充実と経営改善、事業継続に努力しました。

・民営化や老朽化に伴う事業所の建て替えは、法人全体の協力を得ながら補助認可に従って進めました。

・拠点ごとのBCP(事業継続計画)を全拠点で策定することに着手しました。

(4)他の団体との協力連携について

・障害者福祉の向上のために、内閣府、厚生労働省、経済産業省ならびに、東京都、各区市自治体、全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会、一般社団法人ゼンコロ、NPO法人日本障害者協議会、全国社会就労センター協議会、日本セルフセンター、東京都セルフセンターなどにおいて、必要な役割を担いました。

・社会保障制度改革や他の福祉サービスとの二元化、地方分権による地域格差の拡大など、障害者の暮らしに直接影響を与えると思われる課題には、障害分野から視点を充てた問題提起や運動で、特に連携を深めて取り組みました。

・従業員等が、対外的な立場において十分に役割発揮ができるように、可能な限り配慮し支援を行いました。

(5)地域活動について

・拠点ごとの地域活動においては、各自自治体との連携を深め情報交換を密にしなが、地域福祉の向上ならびにニーズに応じた障害者福祉の充実に努めました。

・地域の福祉関連ネットワークには積極的に参画し、地域の重要な社会資源になり得ることを目指しました。

3. 事業本部ごとの個別状況

社会福祉法人として期待にこたえていくためには、就労(受注、生産、販売等)支援事業を安定させ事業を継続することの重要性を再認識し、各事業での営業努力および障害者優先調達推進法を活用するなど仕事の確保に努めました。また、各拠点では既存事業の維持発展に努力するとともに、厳しい事業の見直しや新規事業への取り組みなども並行して進めました。各事業本部の期中の状況は以下の通りとなりました。

(1)法人本部(事務局)

年間の教育研修計画を企画立案・所長会等に提案して、計画に則り実施しました。法人全体の財務運用の適正化、各拠点の事業運営に貢献していくことに努力し、事務処理部門の連携により的確な情報提供・共有に努めました。プライバシーマークの認証取得法人として、個人番号を含めて、その維持・向上に各事業所と連携して取り組み、また適宜、必要な情報提供、集約に努め、各行政窓口との折衝についても、事業所と連携して積極的に関わりを持ちました。

(2)福祉事業本部(グループホーム等、トータル生活支援センター)

既存の共同生活援助、短期入所、居宅介護等ならびに中野区内各拠点と連携して特定相談支

援事業「ころまっぶ」を運営しました。加えて、就労支援事業所の所在する地域のニーズに応じてグループホームの増設を視野に、期中には数件の可能性について検討に入り、1件は来年度の開設に向けて整備計画の準備に入りました。引き続き、障害のある方たちの暮らしの質を向上できるよう努めていきます。

(3)IT事業本部(トータル情報処理センター(事業部、職能開発室、デジタルメディアセンター))

事業本部下の連携・協力により事業の安定化、障害者雇用に努力しました。法人内では、ICT(情報処理および情報通信)技術等を介して法人内各事業所に関わり、ネットワーク委員会などを通じて横断的に役割を果たしました。IT関連の事業面では、入札価格の見直しや顧客への丁寧な対応や技術力を活かして、顧客の深耕ならびに新規の獲得などに努め、激化する価格競争で厳しい売上高確保の中、受注量は確保することができました。また、デジタルメディアセンターでは、事業の安定化を基本目標にして取り組み、大口のシステム開発が受注に結び付きました。

障害福祉施策では対応できない事業領域においては、試行錯

誤しながらも当事者を講師に迎えることや出張型講座など新たな展開を図りました。雇用・就労支援では厚労省のプロジェクトに協力し、既存の民間のハローワーク業務の認定法人としての役割や、受託事業である東京都障害者IT地域支援センターの運営を行いました。

(4) 社会就労事業本部(コロニー中野、中野区仲就労支援事業所、中野区中野福祉作業所、コロニー東村山、トーコロ青葉ワークセンター)

中野区地域では、コロニー中野・法人ビルの老朽化による建て替えの国庫補助申請は、一旦は不採択に終わりましたが、補正予算により採択され急ぎよ準備に入りました。区の指定管理事業所では管理・運営の充実を目指し、(仮称)中野5丁目障害者多機能型通所施設は、先行して施設整備補助が採択されたことにより準備を進めました。三多摩地区では、コロニー東村山で東京都耐震診断促進事業を活用して耐震診断を実施し、一部補強工事が必要と診断されたため、次年度以降、補強工事を検討することとしました。東村山市障害者就労支援室や特定相談支援事業「ふきのとう」や、前年度開設した放課後等デイサービス事業「アリー

バ」での役割を発揮するとともに、既存事業の運営では福祉サービスのさらなる向上に努めました。多岐に亘る就労支援事業においては、ベーカーリー事業では外販の開拓、その他の自主製作品の販売や清掃などの受託事業等では品質管理や生産性・収益性の向上に努め、とりわけ印刷関連事業においては、徹底したコスト削減に取り組みと同時に、アートブリティ事業では企業と連携して、作品を使用した商品販売を行うアートブリティ+(プラス)という新ブランドを立ち上げるなど、新規事業にも取り組みました。

(5) 福祉工場事業本部(東京都葛飾福祉工場、東京都大田福祉工場)

民間移譲後5年目となり、就労継続支援A型・B型事業、就労移行支援事業の多機能型の運営により、福祉サービス事業では、個別支援体制を確立し支援の内容をさらに充実させるために全従業員で取り組みました。

東京都葛飾福祉工場(金町工場)の建て替えは、東京都の民間移譲施設整備費補助事業により無事に竣工することができました。新たに水耕栽培事業を開始するとともに、防災、縫製、製袋事業などの主幹事業においては堅実な運営に努力しました。東京都大田福祉工場の建て替え

も、東京都の民間移譲施設整備費補助事業を前提に解体工事が完了し、年度明けから本格的に新築工事が開始される予定です。主幹事業の印刷は、期中の売上高では前年比でほぼ横ばいを維持することができ、事業規模に見合った体制が整いつつあります。引き続き、法人内の他の事業所と連携・協力し、経営改善に取り組むこととします。

4. 法人全体の経営状況

法人全体の経営状況は以下の通りとなりました。

(1) 建て替え等に関する費用は、国および東京都の補助協議事項によるもので、当該事業所においては、その都度、入札、積立金の取り崩し等、理事会承認を受けながら実行しました。

(2) 在籍者の推移は表1に示す通りであり、総人数805名(前年度784名)で21名増、内障害者は525名(前年度521名)で4名増、障害者比率65・2%(前年度66・5%)となりました。契約者・登録者(表1…参考資料)1,228名を加えると2,033名の人達に責任を負う組織となりました。

(3) 就労移行を支援する事業では表3-1ならびに表1…参考資料に

示す通り、在籍者以外を含めた一般就職者は72名(障害福祉サービスでは16名(就労継続支援事業からの移行2名も含む)、就労移行支援事業の定員が46名なので定員比35%)となりました。

(4) 事業結果の数値では、すべての拠点で黒字決算を計上し、法人全体の事業活動収支計算書における当期剰余金は、189,550千円であり、正味財産が6,115,847千円、繰越残高が3,431,180千円となりました。

表 1. 在籍者の推移

自2016(平成28)年4月1日　至2017(平成29)年3月31日										(単位：人)
		前年度末 在籍者数	期中増減				主な減員理由			年　度　末 在籍者数
			増員		減員		自己都合	一般就労	疾病、 その他	
	雇　用　就　労　者	103 (83)	4 (2)	(0) (0)	8 (4)	(0) (0)	7 (4)	0 (0)	1 (0)	99 (81)
	事業・施設の利用者	345	53	(1)	50	(1)	30	16	3	348
	そ　　　　　　他	73	11	(0)	6	(0)	1	0	5	78
障害がある在籍者（計）		521 (83)	68 (2)	(1) (0)	64 (4)	(1) (0)	38 (4)	16 (0)	9 (0)	525 (81)
障害がない在籍者		263	32	(1)	15	(1)	10	0	4	280
合　　　　計		784 (83)	100 (2)	(2) (0)	79 (4)	(2) (0)	48 (4)	16 (0)	13 (0)	805 (81)

- (注) 1) A型従業員については、障害がある雇用就労者に含めた上で下段の () で再掲している。
2) 増員および減員の各右欄には法人内異動を () で表記している。
3) 「その他」にはグループホーム利用者・在宅パソコン講習生・放課後等デイサービス利用者を含む。
4) 在籍者数には非常勤嘱託医を含まない。

参考資料：「在籍者の推移」に含まれない人員状況

2016年度末及び2016年度中人数				(単位：人)
	登録・契約障害者	一般就職者	トライアル 雇用者等	一般就職者累計
福祉事業本部 (短期入所、移動支援、居宅介護等)	205	—	—	
中野障害者計画相談支援室 「ころまっぷ」	*3 143	—	—	
I T事業本部 (在宅教育修了生、職業紹介登録者等)	32	*1 5	0	
コロニー中野 (委託訓練修了生)	—	*2 0	0	
東村山市障害者就労支援室	406	51	0	
コロニー障害者計画相談支援室 「ふきのとう」	*3 220	—	—	
アートビリティ	*4 200	—	—	
東京都葛飾福祉工場 障害者計画相談支援室	*3 22	—	—	
計	1,228	56	0	*5 429

- *1 在宅教育修了者からの一般雇用 4人、職業紹介事業からの一般雇用 1人
*2 「東京しごと財団」委託訓練修了者からの一般就職者
*3 計画相談契約者数
*4 契約者以外の作品利用が行われた数も含めているため概数としている。
*5 在籍者以外で2007.4～2017.3に当法人で就職をサポートした人の累計

表2. 障害・非障害者及び男女別総括表(人)

事業所名	①身体 障害者	②知的 障害者	③精神 障害者	④その他 障害者	⑤非障 害者	①+②+③+④+⑤ 総人員	2017(平成29)年3月31日現在 男女別人員		平均年齢・在籍	
							男	女	年齢	在籍
法人本部					5	5	3	2	52.6	18.4
福祉事業本部	5	32			15	52	30	22	47.1	8.1
トコ情報処理センター事業部	8		2		16	26	5	21	47.8	13.3
トコ情報処理センター職能開発室 (含:事務局)	10				7	17	10	7	41.0	6.0
デジタルメディアセンター	2		2		5	9	7	2	41.1	13.3
コロニー中野	22	33	13		25	93	62	31	45.9	10.1
中野区仲町就労支援事業所			31		8	39	25	14	43.4	3.2
中野区中野福祉作業所		49	1	1	18	69	31	38	41.3	4.1
コロニー東村山	22	40	8		55	125	97	28	39.5	13.1
トコ青葉ワークセンター	12	84	26	5	27	154	101	53	35.2	9.0
東京都葛飾福祉工場	35	16	7		61	119	74	45	45.7	12.8
東京都大田福祉工場	33	14	12		38	97	74	23	47.1	10.6
計	149	268	102	6	280	805	519	286	42.5	9.9

表3-1. 就労移行支援事業および就労継続支援B型事業

定員・現員ならびに工賃と就労移行の状況(2016年4月～2017年3月)

事業所名	サービス名	定員 (人)	現員 (人)	平均工賃 (円/1人1ヶ月当)	一般企業等へ の移行(人)
コロニー中野	就労移行	10	7.3	17,405	1
	就労継続B型	50	53.5	31,918	0
中野区仲町就労支援事業所	就労移行	6	1.3	35,633	0
	就労継続B型	21	24.2	19,421	0
中野区中野福祉作業所	就労継続B型	60	51.1	18,800	1
コロニー東村山	就労移行	10	8.1	18,831	2
	就労継続B型	55	49.6	39,129	0
トコ青葉ワークセンター	就労移行	8	1.6	11,058	2
	就労継続B型	87	95.0	22,897	0
東京都大田福祉工場	就労移行	6	4.8	56,133	9
	就労継続B型	24	28.4	36,190	1
東京都葛飾福祉工場	就労移行	6	1.3	28,798	0
	就労継続B型	28	15.3	25,211	0
サービス別計	就労移行	46	24.3	26,610	14
	就労継続B型	325	317.0	27,336	2
総計(平均)		371	341.3	27,284	16

*現員は年間をととしての平均現員。

*平均工賃は賞与、交通費等、本人に支払った全ての金額を工賃と見なし、その平均額を算出。

*「一般企業等への移行」欄にはA型雇用への移行を含む。

表3-2. 就労継続支援A型事業

定員・現員ならびに賃金の状況(2016年4月～2017年3月)

事業所名	定員(人)	現員 (人)	平均賃金 (円/1人1ヶ月当)
コロニー中野	10	8.1	181,439
コロニー東村山	15	12.0	195,379
東京都大田福祉工場	30	23.2	260,008
東京都葛飾福祉工場	40	38.7	292,841
総計(平均)	95	82.0	258,287

*平均賃金には、各種手当、賞与を含む(交通費は除く)。

表4. 苦情申出状況

(単位:件)

事業所	申出件数	申出内訳			解決状況		
		対事業所	従業員対利用者	利用者間	事業所内解決	第三者委員会等	未解決
法人本部	0	0	0	0	0	0	0
福祉事業本部	0	0	0	0	0	0	0
IT事業本部(三事業)	0	0	0	0	0	0	0
コロニー中野	0	0	0	0	0	0	0
中野区仲町就労支援事業所	0	0	0	0	0	0	0
中野区中野福祉作業所	0	0	0	0	0	0	0
コロニー東村山	0	0	0	0	0	0	0
トコ青葉ワークセンター	0	0	0	0	0	0	0
東京都大田福祉工場	0	0	0	0	0	0	0
東京都葛飾福祉工場	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0

法人単位資金収支計算書
(自) 2016年 4月 1日 (至) 2017年 3月31日

第一号第一様式 (第七条関係)
(単位: 円)

勘 定 科 目		予 算	決 算	差 異		
事業活動による収支	収入	就労支援事業収入	5,214,402,000	4,978,683,191	235,718,809	
		障害福祉サービス等事業収入	954,511,680	952,384,875	2,126,805	
		その他の事業収入	304,684,000	263,984,807	40,699,193	
		その他の収入		3,243,827	-3,243,827	
		借入金利息補助金収入	830,000	785,035	44,965	
		経常経費寄附金収入	9,327,214	9,702,000	-374,786	
		受取利息配当金収入	3,564,000	1,956,428	1,607,572	
		その他の収入	32,190,824	22,285,701	9,905,123	
	事業活動収入計(1)	6,519,509,718	6,233,025,864	286,483,854		
	支出	人件費支出	732,832,157	716,332,029	16,500,128	
		事業費支出	76,975,065	68,005,471	8,969,594	
		事務費支出	202,238,255	150,631,965	51,606,290	
		就労支援事業支出	5,024,568,560	4,793,481,255	231,087,305	
		その他の支出	255,561,430	227,252,526	28,308,904	
		利用者負担軽減額	7,171,948	6,974,582	197,366	
		支払利息支出	10,535,000	6,105,218	4,429,782	
		その他の支出	6,474,290	4,808,305	1,665,985	
	事業活動支出計(2)	6,316,356,705	5,973,591,351	342,765,354		
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		203,153,013	259,434,513	-56,281,500	
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	99,673,000	383,562,000	-283,889,000	
		設備資金借入金収入	600,000,000	203,016,864	396,983,136	
		固定資産売却収入	35,280	35,280		
		その他の施設整備等による収入	372,472,752	343,718,432	28,754,320	
		施設整備等収入計(4)	1,072,181,032	930,332,576	141,848,456	
	支出	設備資金借入金元金償還支出	14,630,000	41,846,864	-27,216,864	
		固定資産取得支出	1,268,615,920	684,384,195	584,231,725	
		固定資産除却・廃棄支出	450,000		450,000	
		ファイナンス・リース債務の返済支出	6,300,000	3,920,214	2,379,786	
		その他の施設整備等による支出	17,561,856	5,313,280	12,248,576	
		施設整備等支出計(5)	1,307,557,776	735,464,553	572,093,223	
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		-235,376,744	194,868,023	-430,244,767	
その他の活動による収支	収入	長期運営資金借入金収入		50,000,000	-50,000,000	
		積立資産取崩収入	180,100,000	48,050,842	132,049,158	
		事業区分間長期借入金収入	35,000,000		35,000,000	
		拠点区分間長期借入金収入	118,144,000		118,144,000	
		事業区分間長期貸付金回収収入	1,400,000		1,400,000	
		拠点区分間長期貸付金回収収入	20,000,000		20,000,000	
		事業区分間繰入金収入	6,075,348		6,075,348	
		拠点区分間繰入金収入	188,824,784		188,824,784	
		サービス区分間繰入金収入	1,916,000		1,916,000	
		その他の活動による収入		3,138,128	-3,138,128	
	その他の活動による収入計(7)	551,460,132	101,188,970	450,271,162		
	支出	長期運営資金借入金元金償還支出	5,000,000	53,300,000	-48,300,000	
		積立資産支出	81,228,510	77,179,196	4,049,314	
		事業区分間長期貸付金支出	35,000,000		35,000,000	
		拠点区分間長期貸付金支出	118,144,000		118,144,000	
		事業区分間長期借入金返済支出	1,400,000		1,400,000	
		拠点区分間長期借入金返済支出	20,148,000		20,148,000	
		事業区分間繰入金支出	6,125,597		6,125,597	
		拠点区分間繰入金支出	189,084,634		189,084,634	
		サービス区分間繰入金支出	2,126,000		2,126,000	
		その他の活動による支出	8,555,000	7,649,332	905,668	
		その他の活動支出計(8)	466,811,741	138,128,528	328,683,213	
		その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		84,648,391	-36,939,558	121,587,949
		予備費支出(10)		159,381,849		79,898,681
				-79,483,168		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		-27,474,021	417,362,978	-444,836,999		
前期末支払資金残高(12)		2,092,182,848	2,092,182,848			
当期末支払資金残高(11)+(12)		2,064,708,827	2,509,545,826	-444,836,999		

法人単位事業活動計算書
(自) 2016年 4月 1日 (至) 2017年 3月31日

第二号第一様式 (第七条関係)
(単位: 円)

勘定科目		当年度決算	前年度決算	増 減
サービス活動増減の部	収益			
	就労支援事業収益	4,978,683,191	4,863,535,567	115,147,624
	障害福祉サービス等事業収益	952,384,875	947,391,251	4,993,624
	その他の事業収益	263,984,807	274,287,255	-10,302,448
	経常経費寄附金収益	9,702,000	10,565,000	-863,000
	サービス活動収益計(1)	6,204,754,873	6,095,779,073	108,975,800
	費用			
	人件費	719,717,724	679,360,547	40,357,177
	事業費	68,005,471	63,802,652	4,202,819
	事務費	150,654,127	147,483,771	3,170,356
	就労支援事業費用	4,829,113,670	4,836,931,136	-7,817,466
	その他の費用	222,598,363	223,664,217	-1,065,854
	利用者負担軽減額	6,974,582	4,374,253	2,600,329
	減価償却費	90,127,247	99,275,837	-9,148,590
	国庫補助金等特別積立金取崩額	-58,195,498	-65,300,605	7,105,107
	徴収不能額		470,206	-470,206
	サービス活動費用計(2)	6,028,995,686	5,990,062,014	38,933,672
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	175,759,187	105,717,059	70,042,128
サービス活動外増減の部	収益			
	借入金利息補助金収益	785,035	936,405	-151,370
	受取利息配当金収益	1,956,460	5,594,872	-3,638,412
	その他のサービス活動外収益	22,302,124	42,281,974	-19,979,850
	サービス活動外収益計(4)	25,043,619	48,813,251	-23,769,632
	費用			
	支払利息	6,105,218	8,632,322	-2,527,104
	その他のサービス活動外費用	4,808,768	4,963,582	-154,814
	サービス活動外費用計(5)	10,913,986	13,595,904	-2,681,918
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	14,129,633	35,217,347	-21,087,714
経常増減差額(7)=(3)+(6)		189,888,820	140,934,406	48,954,414
特別増減の部	収益			
	施設整備等補助金収益	383,562,000	568,841,000	-185,279,000
	固定資産売却益	163,178	300,000	-136,822
	特別収益計(8)	383,725,178	569,141,000	-185,415,822
	費用			
	固定資産売却損・処分損	361,802	79,458	282,344
	国庫補助金等特別積立金積立額	383,702,000	571,473,000	-187,771,000
	その他の特別損失		15,960	-15,960
	特別費用計(9)	384,063,802	571,568,418	-187,504,616
	特別増減差額(10)=(8)-(9)	-338,624	-2,427,418	2,088,794
税引前当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		189,550,196	138,506,988	51,043,208
法人税、住民税及び事業税(12)				
法人税等調整額(13)				
当期活動増減差額(14)=(11)-(12)-(13)		189,550,196	138,506,988	51,043,208
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(15)	3,274,630,368	2,960,392,899	314,237,469
	当期末繰越活動増減差額(16)=(14)+(15)	3,464,180,564	3,098,899,887	365,280,677
	基本金取崩額(17)			
	その他の積立金取崩額(18)		197,103,440	-197,103,440
	その他の積立金積立額(19)	33,000,000	21,372,959	11,627,041
	次期繰越活動増減差額(20)=(16)+(17)+(18)-(19)	3,431,180,564	3,274,630,368	156,550,196

法人単位貸借対照表
2017年 3月31日現在

第三号第一様式（第七条関係）
（単位：円）

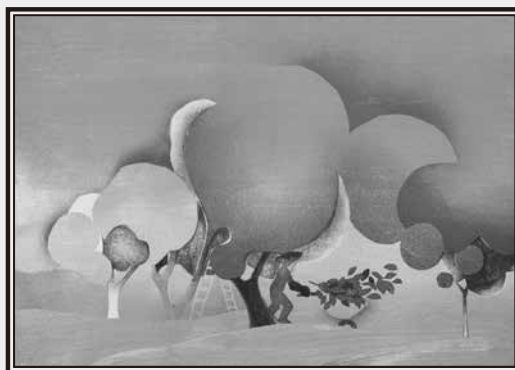
資 産	資 産 の 部		負 債 の 部		増 減	前年度末	当年度末	増 減
	当年度末	前年度末	増	減				
流動資産	4,552,076,840	4,773,280,399	-221,203,559					
現金預金	2,427,154,197	2,095,743,319	331,410,878					
事業未収金	1,310,456,874	1,503,055,597	-192,598,723					
未収金	6,055,942	9,426,429	-3,370,487					
未収補助金	290,337,777	575,479,862	-285,141,885					
受取手形	134,047,781	114,133,912	19,913,869					
貯蔵品	1,823,251	2,518,445	-695,194					
商品・製品	302,525,629	320,524,733	-17,999,104					
仕掛品	17,740,392	16,072,677	1,667,715					
原材料	27,205,584	30,429,785	-3,224,201					
立替金	24,227,109	93,008,736	-68,781,627					
前払費用	12,823,250	15,300,630	-2,477,380					
徴収不能引当金△	2,320,946	2,413,526	-92,580					
固定資産	4,211,830,409	3,993,396,421	218,433,988					
基本財産	1,189,747,712	1,215,915,527	-26,167,815					
土地	740,870,327	740,870,327						
建物	1,184,871,011	1,184,871,011						
減価償却累計額 △	735,993,626	709,825,811	26,167,815					
その他の固定資産	3,022,082,697	2,777,480,894	244,601,803					
土地	370,208,544	370,208,544						
建物	1,480,231,562	1,073,379,698	406,851,864					
構築物	156,206,800	128,381,797	27,825,003					
機械及び装置	982,806,541	983,984,841	-1,178,300					
車両運搬具	64,985,268	57,424,468	7,560,800					
器具及び備品	246,806,911	204,312,354	42,494,557					
建設仮勘定	209,258,527	357,277,035	-148,018,508					
減価償却累計額 △	1,766,588,975	1,650,584,466	116,004,509					
権利	429,500	429,500						
ソフトウェア	27,316,610	31,536,068	-4,219,458					
退職給付引当資産	283,371,524	295,093,466	-11,721,942					
その他の積立資産	957,045,675	916,195,347	40,850,328					
差入保証金	1,415,860	1,365,860	50,000					
長期前払費用	269,856	32,538	237,318					
その他の固定資産	8,318,494	8,443,844	-125,350					
資産の部合計	8,763,907,249	8,766,676,820	-2,769,571					
負債及び純資産の部合計								
負債の部								
流動負債								
短期運営資金借入金								
事業未払金								
その他の未払金								
1年以内返済予定設備資金借入金								
1年以内返済予定長期運営資金借入金								
1年以内返済予定長期未払金								
未払費用								
預り金								
贈与預り金								
前受金								
賞与引当金								
未払税金等								
固定負債								
設備資金借入金								
長期運営資金借入金								
リース債務								
退職給付引当金								
長期未払金								
負債の部合計								
純 資 産 の 部								
基本金								
基本金								
国庫補助金等特別積立金								
国庫補助金等特別積立金								
その他の積立金								
その他の積立金								
設備等整備積立金								
移行時特別積立金								
次期繰越活動増減差額								
次期繰越活動増減差額								
（うち当期活動増減差額）								
純資産の部合計								
負債及び純資産の部合計								

財 産 目 録
2017年 3月31日 現在

別紙 4
(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	取得年度	使用目的等	取得価額	減価償却累計額	貸借対照表価額
I 資産の部						
1 流動資産						
現金預金	—	—	運転資金等	—	—	2,427,154,197
事業未収金	—	—	就労支援事業及び障害福祉サービス事業	—	—	1,310,456,874
未収金	—	—	費用本人負担分等	—	—	6,055,942
未収補助金	—	—	施設整備補助金等	—	—	290,337,777
受取手形	—	—	就労支援事業	—	—	134,047,781
貯蔵品	—	—	【控除対象】切手等	—	—	1,786,965
			【控除非対象】公益事業	—	—	36,286
			小計			1,823,251
商品・製品	—	—	社会福祉事業による物品販売業及び印刷業等	—	—	302,525,629
仕掛品	—	—	社会福祉事業による印刷業等	—	—	17,740,392
原材料	—	—	社会福祉事業による印刷業等	—	—	27,205,584
立替金	—	—	取引業者郵送代等	—	—	24,227,109
前払費用	—	—	保険料等	—	—	12,823,250
徴収不能引当金△	—	—	社会福祉事業による得意先等	—	—	2,320,946
			流動資産合計			4,552,076,840
2 固定資産						
(1) 基本財産						
土地	(福祉事業本部) 東久留米市氷川台2-31-22 (コロニー中野) 中野区江原町2-6-7 (コロニー東村山) 東村山市秋津町2-22-9 (青葉ワークセンター) 東村山市青葉町2-39-10	— — — —	社会福祉事業であるグループホームに使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している	— — — —	— — — —	110,701,020 76,565,247 398,000,000 155,604,060
			小計			740,870,327
建物	(福祉事業本部) 東久留米市氷川台2-31-22 (コロニー中野) 中野区江原町2-6-7 (コロニー東村山) 東村山市秋津町2-22-9 (コロニー東村山) 東村山市秋津町2-22-9 (コロニー東村山) 東村山市秋津町2-22-8 (青葉ワークセンター) 東村山市青葉町2-39-10	2002年 1971年 1974年 1983年 2002年 1989年	社会福祉事業であるグループホームに使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している	66,059,195 84,964,802 133,107,474 91,300,000 192,950,780 616,488,760	26,229,572 84,964,800 129,976,770 70,976,256 67,513,466 356,332,762	39,829,623 2 3,130,704 20,323,744 125,437,314 260,155,998
			小計			448,877,385
			基本財産合計			1,189,747,712
(2) その他の固定資産						
土地	中野区江原町2-6-7 埼玉県八潮市2-1031-1	— —	社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している	— —	— —	71,258,344 298,950,200
			小計			370,208,544
建物	(法人本部) 中野区江原町2-6-7 (福祉事業本部) 東久留米市氷川台2-31-22他 (コロニー中野) 中野区江原町2-6-7 (中野区福祉作業所) 中野区野方1-35 (コロニー東村山) 東村山市秋津町2-22-9他 (青葉ワークセンター) 東村山市青葉町2-39-10他 (東京都葛飾福祉工場) 葛飾区金町2-8-20他 (東京都大田福祉工場) 大田区大森西2-22-26他 (トータル情報処理センター職能開発室) (トータル情報処理センターデジタルメディアセンター	1968年 — — — — — — — — —	【控除対象】社会福祉事業に使用している 【控除対象】社会福祉事業に使用している建物付属設備 【控除対象】社会福祉事業に使用している建物付属設備 【控除対象】社会福祉事業に使用している建物付属設備 【控除対象】社会福祉事業に使用している建物付属設備 【控除対象】社会福祉事業に使用している建物付属設備 【控除対象】社会福祉事業に使用している建物付属設備 【控除対象】社会福祉事業に使用している建物付属設備 【控除対象】社会福祉事業に使用している建物付属設備 【控除非対象】公益事業に使用している建物付属設備	14,077,884 83,297,928 72,525,566 2,171,600 227,118,988 23,617,254 951,742,668 102,312,998 484,776 2,881,900	14,063,593 27,595,668 69,215,548 1,666,406 193,657,711 12,835,665 129,595,454 78,699,615 77,694 814,450	14,291 55,702,260 3,310,018 505,194 33,461,277 10,781,589 822,147,214 23,613,383 407,082 2,067,450
			小計			952,009,758
構築物	—	—	社会福祉事業に使用するアスファルト舗装他	156,206,800	109,685,482	46,521,318
機械及び装置	—	—	社会福祉事業に使用する印刷機械等	982,806,541	914,980,349	67,826,192
車輦運搬具	—	—	【控除対象】社会福祉事業に使用するリストバス等	63,874,610	51,770,658	12,103,952
			【控除非対象】公益事業	1,110,658	994,962	115,696
			小計			12,219,648
器具及び備品	—	—	【控除対象】社会福祉事業に使用する作業機械等	230,607,500	150,749,791	79,857,709
			【控除非対象】公益事業に使用	16,199,411	10,185,929	6,013,482
			小計			85,871,191
建設仮勘定	—	—	施設建設の為	—	—	209,258,527
権利	—	—	共同生活援助等	—	—	429,500
ソフトウェア	—	—	社会福祉事業に使用する販売システム等	78,138,199	50,821,589	27,316,610
退職給付引当資産	—	—	退職給付引当金	—	—	283,371,524
その他の積立資産	—	—	社会福祉事業に使用する修繕費及び施設整備等	—	—	957,045,675
差入保証金	—	—	警備会社等	—	—	1,415,860
長期前払費用	—	—	火災保険料等	—	—	269,856
その他の固定資産	—	—	【控除対象】社会福祉事業に使用する敷金等	—	—	8,315,494
			【控除非対象】公益事業	—	—	3,000
			小計			8,318,494
			その他の固定資産合計			3,022,082,697
			固定資産合計			4,211,830,409
			資産合計			8,763,907,249
II 負債の部						
1 流動負債						
短期運営資金借入金	みずほ銀行他	—	—	—	—	250,000,000
事業未払金	就労支援事業他	—	—	—	—	1,169,792,843
その他の未払金	就労支援事業他	—	—	—	—	42,545,442
1年以内返済予定設備資金借入金	独立行政法人福祉医療機構	—	—	—	—	14,630,000
1年以内返済予定長期運営資金借入金	—	—	—	—	—	3,000,000
1年以内返済予定リース債務	機械購入他	—	—	—	—	2,092,194
1年以内支払予定長期未払金	—	—	—	—	—	13,408,491
未払費用	人件費他	—	—	—	—	67,289,330
預り金	就労支援事業他	—	—	—	—	44,883,916
職員預り金	社会保険料他	—	—	—	—	18,660,103
前受金	就労支援事業他	—	—	—	—	92,539,217
賞与引当金	—	—	—	—	—	95,128,429
未払税金等	消費税他	—	—	—	—	11,669,504
			流動負債合計			1,825,639,469
2 固定負債						
設備資金借入金	三菱東京UFJ銀行他	—	—	—	—	225,390,000
長期運営資金借入金	三菱東京UFJ銀行他	—	—	—	—	51,200,000
リース債務	機械購入等	—	—	—	—	1,941,240
退職給付引当金	—	—	—	—	—	507,644,778
長期未払金	障害福祉サービス等	—	—	—	—	36,244,020
			固定負債合計			822,420,038
			負債合計			2,648,059,507
			差引純資産			6,115,847,742

アートビリティ Artbility ギャラリー 38



『夏の仕事』

Momoca (ももか) さん

1976 年生まれ。千葉県在住。

緑の世界と、緑の人。夏の仕事をする人の思いが伝わってきます。
土の湿り気や木々のあたたかさ、葉っぱの香りも、風に運ばれ漂ってくるようです。
いつだってロマンチックが止まらない Momoca さんの作品たち。今回はこの「夏の仕事」をご紹介します。

Momoca さんは木版により制作しています。版画は一般的に、絵を描く、彫る、刷るという工程があって、それぞれ別の人が担当する場合があります。各工程の専門性が高いものですが、Momoca さんは全てお一人で行います。

木版画はその素朴な味わいに最大の魅力があり、手の温もりを感じる太い線と細い線が絡み合い、シンプルですが力強い表現が生まれます。

Momoca さんの生み出す色は、どの作品をみてもどう形容したら良いか分からないほど美しく、とても深いです。温度が伝わってきます。グラデーションも美しく上品です。

そして、スタイリッシュな構図はデザイン性が高くすっきりして見える一方、ファンタジックでロマンに溢れています。想像力をかき立てられる作品たちは、まるで夢の中にいるようです。

Momoca さんはとても精力的な作家さんのひとりで、展示も今までに多数開催されています。

お話をしたときの印象はまさに「創ることは生きること」。その情熱は生み出す作品の質の高さに比例しており、毎年行われる、年間で活躍した登録作家 3 名を選出する「アートビリティ大賞式典」では、2013 年にアサヒビール奨励賞を受賞、2014 年にはアートビリティ大賞を受賞されています。

今後のご活躍にも目が離せません。

-
- 2008 年 「いつもの場所 いつものかたち展」(千葉) 2 人展開催。
 - 2009 年 「染+陶+版=5 人展」(千葉) グループ展開催。
 - 2011 年 「エイブル・アート・アワード展」(東京) 個展開催。
 - 2012 年 「Artbility meets 10 designers 展」出展。
 - 2013 年 「第25回アートビリティ大賞」アサヒビール奨励賞受賞。「あの夏の記憶展」個展開催。
 - 2014 年 「第26回アートビリティ大賞」大賞受賞。
 - 2015 年 「Small Works」(東京) グループ展開催。「アートイベント島根2015展」出展。

■アートビリティは、「才能に障害はない」をキャッチフレーズに、1986 年にスタートしました。障害者アートの所得支援を目的とした、社会福祉法人東京コロニーが運営する事業です。現在、登録作家約 250 名、登録作品約 4500 点。年間使用作品数約 400 点。

ご寄附のお礼

(2016 年 12 月～2017 年 5 月 総額 2,530 千円)

下記の皆様より、当法人に対してご寄附を賜りました。ご支援に対しまして心より感謝申し上げます。

2016 年 12 月～ 永山コンピューター	2016 年 12 月 沖電気工業株式会社 OKI 愛の募金事務局 様
2017 年 5 月 サービス株式会社 様	2017 年 1 月 諏訪 康雄 様
2016 年 12 月 三浦きく子 様	2017 年 1 月 日立キャピタル株式会社 様
2016 年 12 月 渡 秀二 様・渡 恵美子 様	2017 年 2 月 三浦きく子 様

◎文中の写真はご本人の了解を得て掲載しています。

東京コロニーのホームページ



東京コロニー メインページ
<http://www.tocolo.or.jp/>



コロニー東村山
<http://www.colony.gr.jp/colonyhigashimurayama/>



コロニー印刷
<http://www.colony.gr.jp/>



デジタル メディアセンター
<http://www.dmc-net.jp/>



アートビリティ
<http://www.artbility.com/index.html>



東京都大田福祉工場
<http://www.tocolo.or.jp/oota/>



トーコロ情報処理センター職能開発室
<http://www.tocolo.or.jp/syokunou/>



トーコロ青葉ワークセンター
<http://www.colony.gr.jp/aoba/>



東京都葛飾福祉工場
<http://www.fireman21.net/>



トーコロ情報処理センター事業部
<http://www.tocolo.or.jp/joho/>



トーコロ生活支援センター
<http://www.tocolo.or.jp/seikatsu/index.html>



グループホーム
<http://www.tocolo.or.jp/grouphome/index.html>



中野区仲町就労支援事業所
<http://colony.gr.jp/nakatoyoshienn/>



中野区中野福祉作業所
<http://colony.gr.jp/nakanofukusaku/>



コロニー中野
<http://colony.gr.jp/colonymakano/>